

絶滅危惧種「ニホンイシガメ」の自然繁殖と、昨今の活動



自然に近い環境構築を目指しているビオトープでのプロジェクトのひとつ、「絶滅危惧種ニホンイシガメの自然繁殖」。確認できました！

亀に詳しい園の先生から、「甲羅が、首が、あれはニホンイシガメの赤ちゃんでした」との報告があったのですが、本日写真に収められました。

2匹確認できたので、おそらくビオトープ全体ではかなりの数の2世が生息していると思われます。

ビオトープの「上の池」。防水シートを入れてあります。子亀や親亀たちの様子。クサガメの赤ちゃんも確認できています。「どこにいきたいんだろうね?」と、時々園庭をお散歩しているのですが、施設内なら、それはそれで良いのではないかと。



オイカワ、カワムツ、モツゴ、モロコ、ギンブナ、キンブナ、ギバチ、ドジョウ、メダカ、アカハライモリ、カワニナ、カワエビ、etc



お隣の認定こども園へ、お散歩?草刈り?朝ごはん!もはや「飼う」のではなく、共生・共存という大切な意識へと歩んでいます。



ぐんぐん育つ学園内各所のバナナの木はヤギさんたちの大好物。ゴミが資源に。園児さん達も手伝ってくれます。





山椒の若木にアゲハの幼虫が数匹みられたので、大きく育った柑橘系の木に移動。出来る限り手を加えずの自然循環を目指していますが、もちろん最初は人工的・恣意的に作ってきたビオトープ。初期の頃はこのような手入れも必要となってきます。こまめに意識をしないと、葉が食べられてしまい、木自体が枯れてしまいます。アゲハにとっても、大好きな山椒の木がなくなってしまいます。

山椒の木がある程度大きくなり、食べても枯れるに至らない大きさに育つまで、留意が必要となります。そうなれば、「どんどんお食べ」と、アゲハも幼虫も、毎年豊富に継続されます。

そう、アゲハも山椒も、どちらも守るために。害獣駆除などの理由にも似ていますね。ビオトープには完成はありません。毎年、四季折々、さまざまに変化や成長を繰り返し、環境自体が適合しようとしています。面積、水量、生物の種類、それらが各々良好なバランスを保てるように成長したり、時には侵略者が入って来たりします。

それらを普段の生活の中で垣間みたり感じたり出来る要素があるというのは、興味や好奇心旺盛で、多感な幼少期の育ちにとって、かけがえのない育ちの要素だと考えています。

餌をあげる行為も、自然に構築されつつある循環バランス構築にも悪影響を与えます。自然界と、一緒ですね。



ビオトープで育つ黒米(古代米)、イチジク、柿など。



自然体験や野外活動に対する教育的な価値観は様々です。特に重要視したい子どもから大人までが活動できるよう、HM-Groupでは、課外要素的な活動拠点として、むさしの地球村での活動の拡大を目指しています。

～ 小さく転んで大きく育てる ～

常に、土や木々、自然に触れ合う活動ですので、泥だらけになります。水に濡れたりもします。時には小傷をつくってしまうことも。しかしながら、色々なことを身をもって経験し、自ら考えることで、いざ親の手から離れたときに、危険な場所へ近づいたり、海や川で流されたり、山や崖で滑落したり、そういった事故に巻き込まれないように願うことはもちろん、自然のありがたさ、大切さ、素晴らしさを体感し、生き活きと自然との調和を楽しめる力をつけたり、また、様々な興味の広がり期待し、将来的な多分野への学びへの力へと繋がって欲しいとの狙いを持った団体です。ご参加の際は、ご理解ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



@MUSASHINO_EARTH_CLUB



むさしの地球村

(NPO 法人設立準備中)

【協力】



学校法人野澤学園
東村山むさしの認定子ども園 GROUP
<https://musashino-group.tokyo/>

